地域環境ジュニアパトロール活動
メンバーからの報告

1995

地域環境ジュニアパトロール

活動報告書

グループ名	上六パトロール隊

テーマ	江端川（上文殊地区）における水質調査

メンバーの氏名	学校名	学年
川崎耕介	上文殊小学校	6年
海道雄	上文殊小学校	6年
小林侑樹	上文殊小学校	6年
宇野隆弘	上文殊小学校	6年
川端清貴	上文殊小学校	6年
大味裕史	上文殊小学校	6年

指導者氏名	川崎英治	保護者

１．テーマを選んだ理由

上文殊地区を流れる江端川は、まわりを水田に囲まれておりその農業用水の役割をはたしているほか、５００世帯余りの生活用水の役割をはたしています。

また、１０ヵ所以上の地点に『ゴミをすてないでください』という看板が立てられていて、マナーの悪いドライバーによる空き缶の投げ捨てやゴミの川への投げ捨てが問題になってきています。

そこで、私たちは自分たちで自分たちの住む上文殊地区を少しでもきれいな町にできないかと考え、上六パトロール隊を結成しました。そして、この活動の結果を夏休み明けに学校で全校児童に知らせ、みんなに自分たちの住んでいる町が今どうなっているのかについて知ってもらい、少しでも江端川の汚れについて関心をもってもらおうと考えています。

かみろく

上六パトロール隊のメンバー

２．活動の記録（主な日程及び内容）

７／２７（木）　活動の計画づくり（パトロール手帳，Ｔシャツの配布）

８／　５（土）　上文殊地区を流れる河川の水質調査　（13:00 ～16:00 ）
（ＣＯＤパックテストによる化学的酸素消費量調査）

８／　８（火）　水生動物調査（小石の裏＋魚等）　（13:00 ～16:00 ）

８／　９（水）　水生植物調査（水草）＋川辺の植物調査（13:00 ～16:00 ）

８／１０（木）　河川に捨てられている空き缶等調査　（13:00 ～16:00 ）

８／１１（金）　川をきれいにするための看板づくり　（13:00 ～16:00 ）

８／２７（日）　報告書づくり（環境地図つくり）＜１＞（13:00 ～16:00 ）

３．調査結果及び考察

８／５ 晴	【ＣＯＤパックテストによる化学的酸素消費量調査】（13:00 ～16:00 ） 上流　10 ppm　5ppm　10ppm 中流　20 ppm　20ppm　20ppm　10ppm 下流　20 ppm　50ppm　20ppm　20ppm
江端川	☞ポイントを１１ヵ所決めて、ＣＯＤパックテストを実施した。 初めの予想としては、下流の方が酸素消費量が小さいと思ったが、上流にいくほど酸素消費量が小さいという結果になった。これは、上流の方が生活排水が流れ込んだり、農業排水が流れ込んだりして汚れていることを示している。また、上流ほど水の量が少ないことも酸素消費量が小さくなる原因になっているように思う。

8／8 晴 江端川	【水生動物調査（小石の裏＋魚等）】（13:00 ～16:00 ） 上流　ウグイ，タイリクバラタナゴ，ドジョウ，カメ 中流　ウグイ，タイリクバラタナゴ，フナ，コイ，メダカ， 下流　ウグイ，タイリクバラタナゴ，フナ，コイ，メダカ，ナマズ
	上流　カワニナ 中流　カワニナ，ドブガイ 下流　カワニナ，ドブガイ
	上流　アメリカザリガニ，オオユスリカ 中流　アメリカザリガニ，イシマキガイ 下流　ミズムシ，ヒラタドロムシ
	☞川の指標生物・魚等について１１ヵ所で調べた。 この調査結果から上流ほどきたない川という状態であった。しかしながら、そんな中でたくさんの生物たちが生きていることもわかった。特に、ウグイがかなり汚れた川でも生活していることからすごい生命力を感じた。また、それぞれの生物は何を食べて生きているのか不思議だ。

8／9 晴	【水生植物調査（水草）＋川辺の植物調査】（13:00 ～16:00 ） 上流　セキショウモ，コカナダモ，キンギョモ（水草） ススキ，スイバ，ヨモギ，メヒシバ，キンエノコログサ，スギナ，ハナタデ，ヨシ，ツユクサ，ヒメジョオン，カナムグラ，ミゾソバ，ヤブマオ，ヒルガオ，オナモミ，アザミ，アメリカセンダングサ，セイダカアワダチソウ，オオバコ，ヤエムグラ，ドクダミ，チドメグサ，シロツメクサ，アカツメクサ，ヒエ
	中流　セキショウモ，コカナダモ，キンギョモ（水草）

江端川	ススキ，スイバ，ヨモギ，メヒシバ，キンエノコログサ，スギナ ハナタデ，ヨシ，ツユクサ，ヒメジョオン，カナムグラ，ミゾソ バ，ヤブマオ，ヒルガオ，オナモミ，アザミ，アメリカセンダン グサ
	下流　セキショウモ（水草） ススキ，スイバ，ヨモギ，メヒシバ，キンエノコログサ，スギナ ハナタデ，ヨシ，ツユクサ，ヒメジョオン，カナムグラ
	☞水生植物（水草）＋川辺の植物について１１ヵ所で調べた。 この調査結果から上流ほど種類が多いという結果になった。しかし、下流にいくほど大きい植物が群生していてあるくのもやっとという所が多かった。また、ていねいに下草刈りがしてある所が多く、農家の人々の苦労がよくわかった。河川工事が進められている所もあった。

8／10 晴 江端川	【河川に捨てられている空き缶等調査】（13:00 ～16:00 ） 5　10　15　（個） 上流　空き缶　●●●●●●●●●●●●●●● 波板　●●● ビニールシート　● 紙パック　●●●●●● プラスチックケース　●●● ビニール袋●●●● その他　●●●●●●●　（タバコの箱，ハサミ，茶わん等） 中流　空き缶　●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●● 波板　●●●●●●●● ビニールシート　●●●●●●●●●●●●● プラスチックケース　●●●●●●●●●●

ビニール袋●

その他　●●●●●●（なべのふた，ＶＴＲテープ，ホース等）

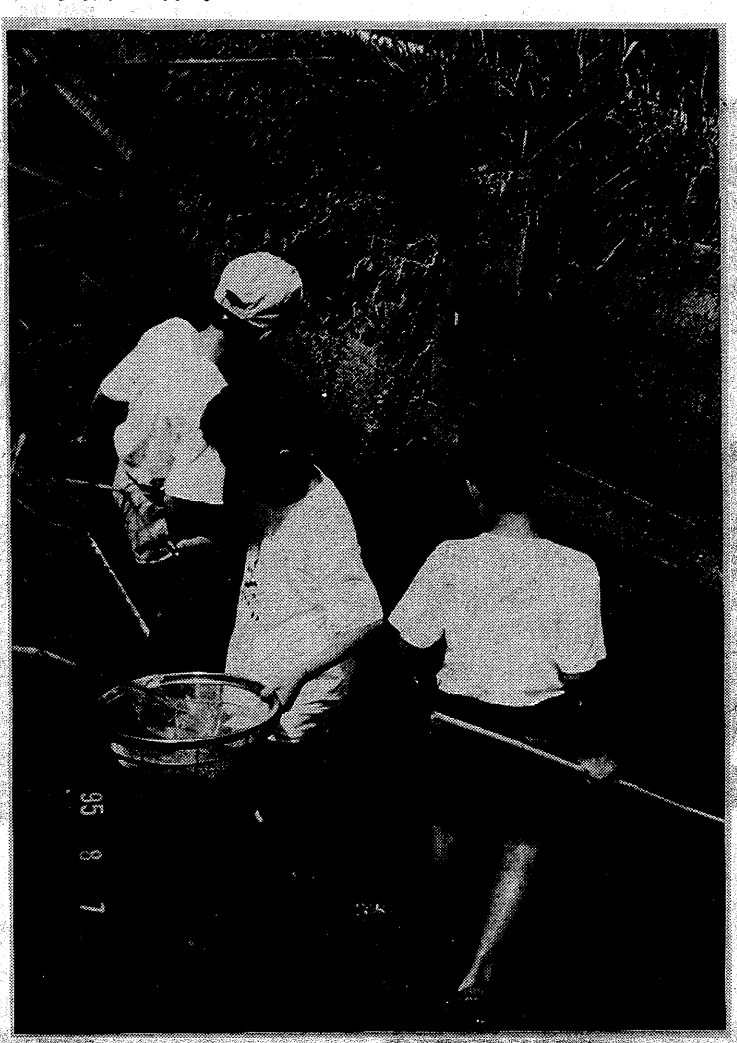
下流 空き缶	●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●● ●●●●●●●●●●●●●●●●●●●(43)
波板	●●●●●●
ビニールシート	●●●●●●●●●●●●●●●●●●
紙パック	●
プラスチックケース	●●●●●
ビニール袋	●●●●●●●●●●●●●●●●●
その他	●●●●　（茶わん，缶等）

☞河川に捨てられている空き缶について１１ヵ所で調べた。

この調査結果から下流ほど数が多いという結果になった。特に、空き缶が多く回収するのに時間がかかった。川の流れにのって流れついたものが含まれていると思うが、橋の下あたりにはたくさん捨てられていることが多かった。いらなくなったビニールシートもたくさん捨ててあった。見つからなければ何をしてもいいと考えているのだろうか。みんなの川という気持ちをもっともってほしいと思った。

8／11 晴	【川をきれいにするための看板づくり】（13:00 ～16:00） 板けずり，スプレーかけ，看板書き→看板の設置（一番空き缶が多く捨ててあった所）
江端川	☞みんなで力を合わせて看板づくり，図案書き，看板設置を実施した。 初めに役割分担をして、図案を書く係・板を削ったり切ったりする係などに分けて作業を進めた。図案はみんなで選んだ。この看板を見て、少しでもゴミを捨てる人が減ってくれるといいと思った。

4．パトロール活動の実際の様子



① 水生動物調査（小石の裏＋魚等）の様子

② 水生植物調査（水草）＋川辺の植物調査

③　河川に捨てられている空き缶等調査

④　川をきれいにするための看板づくり

5. メンバーの感想＜1＞

メンバーの感想　6年　川崎耕介

地域の環境を守るため、ぼくたちは平成7年度の福井県地域環境ジュニアパトロールのメンバーとして参加しました。平成7年7月27日に、福井県知事に手帳を手わたしでもらった時は、周りにテレビ局のビデオがたくさんいたのでとてもきんちょうしました。調査の1日目、ぼくたちは酸素の量を調べました。第4ポイント5PPM、第8ポイント10PPMなど川に酸素はあまり多い所はないなぁと思いました。けれどウグイやタナゴなど生物がすんでいたので生物はすめるんだ。よかったぁと思い、ホッとしました。調査2日目こんどは水生植物・生物を調べに行きました。1番多かったのは、ススキ・スイバ・キンギョモ・コカナダモ・セキショウモなど植物はたくさん生えていたのでうれしかったです。するとと中でヤマカガシというどくをもったヘビがやってみんな大さわぎでおもしろかったです。調査の3日目今日は川のゴミの種類を調べる日です。第1ポイントでとっても多かったのがビニールシートです。なんと18枚もおっていたのでビックリしました。そしてどんどん進んで行くと空きカンが91本も捨ててあり悲しかったです。ぼくたちはこういう光景を目にし、ぼくたちは次の日ぼくたちの思いがこもったかん板を作りました。まず木をけずりきれいにし、みんなのアイディアを紙に書き、四角い板にスプレーをかけその上から、日いマジックでそのアイディアの絵をかきました。アイディアはぼくがだしたものだったのでうれしかったです。そしていちばん多かった第4ポイントにかん板を立てました。そして最後に記念に写真をとりました。みんなの思いがこもったかん板をなるべく多くの人が見て空きカンが91本から0本にへってほしいです。ぼくはこれからも自然を大切にし、自分自身で環境を守り、空きカンを川に捨てないようにしたいです。自分でできることはしたいと思います。この環境パトロールに入って、ぼくは色々な自分を見つけました。

メンバーの感想　6年　川端清貴

ぼくは、この環境ジュニアパトロールにさんかしてとても勉強になったなと思いました。8月5日から8月11日まで、川の酸素や川のゴミ、魚をつかまえたり、植物などを調べたりしました。酸素を調べたときは最高で100PPMのところもあったし、植物は予想以上の種類がありました。魚は7ひき以上つかまりました。カメもつかまりました。ゴミはアキカンやビニールぶくろが多かったです。最後にかんばんをつくり、同じメンバーの宇野君の近くの川にかんばんをつけました。「わたしを捨てないで」と書いてあり、まん中にアキカンが書いてあります。これでアキカンを捨てる人が1人でも少なくなるといいなと思いました。とても勉強になりました。

メンバーの感想　6年　海道雄

ぼくは、この地域環境ジュニアパトロールに参加してとても勉強になりました。川の酸素の量を調べたり、川のゴミひろいもしました。空きカンはとってもいっぱいありました。ゴミも、たくさんあり、「なんで川にゴミをすてるのだろう」と思いました。ぼくはぜったい川にゴミはすてません。そこでぼくたちはかん板を作りました。空きカンのえをかいて「わたしをすてないで！」と書き空きカンのよくすてあった川のそばに取りつけました。これを見て、空きカンをすてる人が一人でも、へってくれるとうれしいです。1日も早く、環境問題をかいけつしてほしいと思います。

メンバーの感想　6年　小林倫樹

ぼくはこの環境パトロールがとても勉強になりました。まず8月5日にあった水質検査には、ぼくは行けなかったけれどメンバーの手帳を見せてもらい、この地区の川には酸素が少いということが分かりました。それに調べていたときにうぐいがおよいでいたし、ヤマカガシがいたと言っていました。次にあった環境パトロールは8月8日でした。この日は水生生物を調べました。この日は調べるのではなく川にいるウグイなどをつかまえていました。3人があみを持って、つかまえようとしたけどなかなかつかまえれませんでした。だけど宇野君が一ぴきつかまえました。それからも宇野君が二ひき3ひきとどんどんつかまえていきました。そしてぼくがつかまえたのは、どじょう一ぴきだけでした。8月9日には水生植物を調べました。ぼくは、調べた植物の中に、初めて知った物がとても多くありました。それはアメリカセンダングサ、カナムグラなどです。そして一番たいへんだったゴミ調べが8月10日にありました。このゴミ調べで分かったことは、川の中にも、川のまわりにも空かんがとても多く捨てられていました。落ちていたかんを全部あわすと91個もありました。その次になみ板やビニールなどがたくさん捨ててありました。そして8月11日にかんばん作りをしました。そしてそのかんばんを宇野君の家の前の江ばだりの所につけました。このかんばんで少しでもごみを捨てる人がすくなくなるといいと思いました。

メンバーの感想＜２＞

メンバーの感想 6年 宇野隆弘

ぼくは、ジュニアパトロールをやっています。酸素の量をしらべたり、川辺の植物も、川の中のたいしべました。さまざまなものがおちていたまず、ビデオテープはさみ、ビニールぶくろプラスチックケスとかがおちていた。水の中にある植物はコカナダモキンギヨモ、ヒキシヨオモとかがはえていました。さいしょのころわいったいなにをするのかわわからなかったけど、やってみると、たのしくなってきた。川辺の植物は、ススキ、ヨモギ、アメリカセンダングサ、ヒメジヨン、コカナダモ、アザミとかがはえていました。植物がはえていないところがありました。工事して、おたらしくしたから、まだ植物がはえていないのです。8月1日にかん板を、つくりました。えは、川皆耕介くれがかきました。みんなで、力をだして、かん板を、つくりました。かん板を見て、カンをすてないように、してほしいです。

メンバーの感想 6年 大味裕史

ぼくは、環境パトロールにはいって、思ったことは、木の中の草や、川の中にあるゴミとかいろいろわかりました。
酸素の量をしらべたりしたことがたのしかったです。
川にはうぐいという魚がいました。
それから川の中にはいってアキカンやなみ板やはさみ、ちゃわんなどをたくさんんひろいました。
次の日にかんばんを作りました。
木を見つけて、ましかくのいたに赤いスプレーをかけてしろい字で「わたしを捨てないで」とかきました。
次に、はしに行ってかんばんをたてました。
ぼくは、川になんでもすててはいけないとわかりました。
これからは、ぼくもカンなどを捨ないでおこうと思いました。
あつい日に、まいにちかつどうして、つらいときもあったけどとてもよい勉強になりよかったです。

6. 指導者の感想

このジュニア環境パトロールの活動を通して、自分たちが住んでいる町の自然について、自分たちの目や耳など体を使って楽しく調べてみることができたように思います。今まで気づかなかった草花に触れたり、楽しそうに泳いでいる魚たちをながめたり、そのひとつひとつの自然が、『単に目にはいってくる対象』から自分たちの身の回りを楽しくしてくれている『自分たちにとって大切なかけがえのない関係』としてみてくれるようになってくれたらと願って活動をすすめていきました。そして、川に捨てられている空き缶やゴミなどを拾いながら、「魚がかわいそう」というつぶやきを耳にしたとき、子どもたちが川と自分とのかかわり方に気づいてれたようでうれしくなりました。最後の「看板づくり」の活動では、それまでの調査活動を通して心で感じ取ったことを図案化して自分たちの願いとしてしっかりと作ってくれたように思います。子どもたちのどの感想にも書いてあった「この看板を見て、空き缶を捨てる人が一人でも減ってくれたらうれしい」という言葉はこの地域に住む一人ひとりが自分たちの町を大切にしていくために心がけなければいけない大切なメッセージだと思います。私自身、この活動に参加して子どもたちのすばらしい純粋な感受性に触れ、自分の身の回りの環境を自分たちで管理していくことの大切さあらためて痛感させられた思いでいっぱいです。